



都鳥手鏡 (梅柳山木母寺所蔵)



隅田川春遊絵巻 (春のみふね、文化8年 (1811))

企画展 隅田川を詠い、 梅柳山木母寺に集う

令和7年 12月20日(土) から
令和8年 2月15日(日) まで

すみだ郷土文化資料館

東京都墨田区向島 2-3-5

都営浅草線：本所吾妻橋駅から徒歩8分

TEL 03 (5619) 7034 FAX 03 (3625) 3431

すみだ
郷土文化資料館
ホームページ



会場：3階展示室

時間：午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)

休館日：月曜日・第4火曜日(土・日・祝日は開館。祝日に当たる時は翌平日休館)・
12月29日～1月2日

入館料：個人100円・団体(20名以上) 1人80円

※中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を
お持ちの方及び介助の方1名は無料

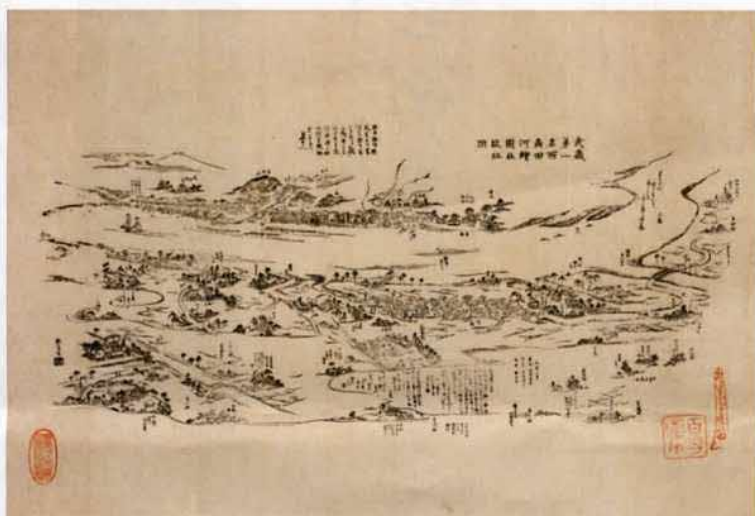
隅田川を詠い、梅柳山木母寺に集う

はるか昔平安時代のはじめ、在原業平が京都から東下の旅の途中、隅田川で都鳥に託して京を偲ぶ一首を作りました。『伊勢物語』は『古今和歌集』『源氏物語』とならぶ古典として後世の歌人に読まれ、そのなかの著名歌である業平の一首は広く知られるようになりました。そして、名所としての隅田川の地位は、『建保名所百首』（建保3年〈1215〉成立）によって固まり、京の公家達は遙か東国の隅田川に思いを馳せて、多くの和歌を詠みました。

そんな名所に大きな変化が訪れたのが江戸時代でした。徳川家康が江戸に入り、天下人としての地位を固めていくにつれて、京都の公家の江戸下向が盛んになりました。慶長12年（1607）梅若寺に近衛信尹が立ち寄り、漢字の梅の一部を二字に分け木母寺と名付けて以降、木母寺と称するようになりました。その

後、江戸にも和歌文化が根ざし、隅田川は身近な名所として、武士・町人・百姓たちにも広く詠まれるようになりました。

今回の企画展では、隅田川と梅柳山木母寺にちなんだ和歌と歌人を紹介していきます。



武蔵第一名所角田河絵図並古跡附



すみだ郷土文化資料館

〒131-0033 東京都墨田区向島 2-3-5

TEL 03(5619)7034 / FAX 03(3625)3431

- 都営浅草線「本所吾妻橋」駅下車、徒歩8分
- 東武線「とうきょうスカイツリー」駅下車、徒歩7分
- 都営バス「言問橋」停留所下車、徒歩2分
(草39: 金町駅～浅草寿町
業10: 新橋～とうきょうスカイツリー駅
上26: 亀戸駅～上野公園)
- 都営バス「本所吾妻橋」停留所下車、徒歩8分
(都08: 錦糸町駅～日暮里駅
門33: 豊海水産埠頭～亀戸駅
上23: 平井駅～上野松坂屋)



東都旧跡 隅田川都鳥の故事
(広重画、天保14年～弘化4年〈1843-47〉)

木母寺の揮毫 (梅柳山木母寺所蔵)